

② 合流式下水道地域の事業場が有害物質使用特定施設を設置する場合

②のア 研究施設 [26 ページから 32 ページまで]

放流先	合流下水道	分流下水道	公共用水域
施設種類	特定施設		
有害物質の使用	有		

様式第1（第3条関係）（表面）

特定施設（有害物質貯蔵指定施設）設置（使用、変更）届出書

●年 ●月 ●日

東京都知事 殿

東京都〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号

〇〇株式会社

届出者 代表取締役 東京太郎

郵便番号(▲▲▲-▲▲▲▲) 電話番号(▲▲-▲▲▲▲-▲▲▲▲)
(氏名又は名称及び住所ならびに法人にあってはその代表者の氏名)

水質汚濁防止法第5条第1項、第2項又は第3項（第6条第1項又は第2項、第7条）の規定により、
特定施設（有害物質貯蔵指定施設）について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	〇〇株式会社 〇〇研究所		
工場又は事業場の所在地	〇〇市〇〇町〇〇丁目〇番〇号		
第5条第1項関係	特定施設の種類		※整理番号
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 ☐ 無 ☐	
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	※受理年月日
	△特定施設の設備 (有害物質使用特定施設の場合に限る。)	別紙1の2のとおり。	年 月 日
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※施設番号
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。	
第5条第2項関係	△排水等の汚染状態及び量	別紙4のとおり。	※審査結果
	△排水等の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。	
	△排水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。	
	有害物質使用特定施設の種類		
	△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。	
	△有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。	
第5条第3項関係	△汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。	
	△特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。	
	△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。	
	有害物質使用特定施設 又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 有害物質使用特定施設 ☐ 有害物質貯蔵指定施設	※備考
	△有害物質使用特定施設 又は 有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙12のとおり。	
	△有害物質使用特定施設 又は 有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙13のとおり。	
△有害物質使用特定施設 又は 有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙14のとおり。		
△施設において製造され、使用され、 若しくは処理される有害物質に係る 用水及び排水の系統又は施設において 貯蔵される有害物質に係る搬入及び 搬出の系統	別紙15のとおり。		

該当する部分以外は二重線で消す。

【届出者が法人の場合】
名称・本社住所及び代表者
職氏名を記入する。

【届出者が個人の場合】
事業主の住所・氏名を記入
する。

特定施設等を設置しよう
とする工場・事業場名及び
住所を記入する。

有害物質使用特定施設に
チェックする。

様式第1 (裏面)

- 備考 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる号番号及び名称(指定地域特定施設にあつては、名称)を記載してください。
- 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入してください。
なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙1の2を提出は要しません。
- 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当する施設にレ印を記入してください。
- 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用してください。
- 5 ※印の欄には、記載しないでください。
- 6 排水水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けてください。
- 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させてください。
- 8 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4としてください。

主要製品の名称を記入する。
年間当たりの出荷額(予定額等)
を記入する。

届出に係る事業場の従業員のみの
(本社、他の事業場等は含めない。)

参考

主要製品の名称 生産額及び出荷額	資本金	〇〇〇万円	敷地面積	2,500m ²
医薬品 (研究・実験)	従業員数	50人	作業場面積	1,000m ²
	業種	試験研究	現在の地での 操業年月日	×年×月×日
	用途地域	準工業地域	操業時間	9時～17時 (8時間)
	公害防止担当部 課及び担当者	製造課 ▲▲グループ ○○ ○○ 電話(〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇) E-mail: 〇〇▲▲@tokyo.todokade.co.jp		

この部分は
必ず記入する。

本社ではなく、事業場の担当者
を記入する。

別紙 1 2

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の構造

工場又は事業場 における施設番号	No-1,2,5,6 (特定施設の種類: 71の2 イ 洗浄施設)	No-9 (特定施設の種類: 71の2 イ 洗浄施設)
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☐ 使 用 ☐ 貯 蔵	☐ 使 用 ☐ 貯 蔵
型 式	流し台	廃ガス洗浄施設
構 造	ステンレス製	ステンレス製 (添付第2図参照)
主 要 寸 法	600×1,200×200(H) mm	装置全体 2,000×800×3,650(H) mm (脚 150 (H) mm)
能 力	—	処理風量 20m ³ /分
配 置	実験室 1F (添付第1図参照)	建屋外 (添付第1図参照)
床面及び周囲	床面:コンクリート製100mm厚 ビニルエステル樹脂被覆 周囲:吸収マットを常備する (A基準と同等以上の措置)	床面:コンクリート製100mm厚 周囲:防液堤(容量●m ³)
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	○年 ○月 ○日	○年 ○月 ○日
工事完成予定年月日	△年 △月 △日	△年 △月 △日
使用開始予定年月日	×年 ×月 ×日	×年 ×月 ×日
その他参考 となるべき事項	吸収マットでの対応について、漏洩時に迅速 に回収できる体制を整備し、施設本体にかかる 定期点検を月1回実施する。また、このことを管 理要領に記載する	

備考1 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設及びこれに関連する主要機械
又は主要装置の配置について図面を利用して記載してください。(添付第()図のとおり)

該当する部分以外は二重
線で消す。

複数の施設が存在する場
合は添付図面に対応した
事業場内における番号と
名称を記入する。

使用にチェックを入れる。

施設の型式等を記入する。
メーカー名が分かる場合
は記入する。

施設の構造材料・材質等を
記入する。施設に関するカ
タログ・資料等を添付す
る。

施設の大きさを記入する。
(構造図等添付)

原則として1施設をフル
稼動(想定される1日の最
大作業時間)させた場合の
能力を記入する。

事業場内の建物の名称・位
置等を明記した別図(工場
配置図)に、特定施設の配
置が分かるように記入す
る。(32 ページ参照)

各予定日を記入する。

床面は材質(コンクリート等)や被覆の有
無等について記入する。
周囲は受け皿、防液堤、側溝等について記
入する。
(同等以上の措置をとる場合は、その他参
考となるべき事項欄に内容を記入する。)

別紙 13

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の設備

工場又は事業場 における施設番号	No-1,2,5,6	No-9
有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使用 ☐ 貯蔵	☒ 使用 ☐ 貯蔵
設 備	排水管	無(特定施設からの排水管 無)
構 造	排水管: 屋内 塩ビ床下排水管 屋外 塩ビ地下排水管 (トレンチ内設置)	
主 要 寸 法	塩ビ管: 直径50 mm (屋内部 二重配管) トレンチ: 幅300mm×深さ300mm×5m (コンクリート製 厚さ50mm)	
配 置	実験室 1Fから下水道公設マス まで (添付第1図参照)	
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	○年 ○月 ○日	○年 ○月 ○日
工事完成予定年月日	△年 △月 △日	△年 △月 △日
使用開始予定年月日	×年 ×月 ×日	×年 ×月 ×日
その他参考 となるべき事項	有害物質を含む水は流れない。 (器具を洗浄する過程で希釈され、配管を流れる時には検出下限以下となる)	

備考 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備の配置について図面を利用して記載してください。(添付第()図のとおり)

参考

点検内容・頻度等	●施設及び床面等	●施設及び床面等
	・装置本体の異常の有無、漏洩の有無の目視確認(月1回以上) ・床面のひび割れや被覆の損傷等の有無(年1回以上) (有害物質を含む水が流れない配管や排水溝等は、構造や設備等に関する点検の義務は生じない。) ● 使用の方法に関する事項 ・管理要領の確認(年1回以上)	・装置本体の異常の有無、漏洩の有無の目視確認(年1回以上) ・床面のひび割れや被覆の損傷等、防液堤のひび割れ等の有無(年1回以上) ● 使用の方法に関する事項 ・管理要領の確認(年1回以上)

点検内容・頻度は 77～83 ページを参考に記入する。詳細は、環境省マニュアル『地下水汚染の未然防止のための構造と点検・管理に関するマニュアル』に記載されている。

<https://www.env.go.jp/water/chikasui/brief2012.html>

別紙 12 と同じ内容を記入する。

該当の特定施設に接続し、次の施設又は排水処理施設に至るまでの設備の種類を記入する。

(例 配管、ためます、排水ピット、フランジ、バルブ、排水溝等)

設備の材質や設置状況等を記入する(例 ポリプロピレン製架空配管等)。また、検知設備があれば記入する。

設備のうち主なものについて寸法を記入する。

建物の名称・位置等を記入し、必要に応じて図示する。特に地下に設置する場合は、その旨記入する。

各予定日を記入する。

必要に応じて、有害物質を含む水の流れの有無等を記入する。

別紙 14

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の使用の方法

工場又は事業場 における施設番号	No-1,2,5,6	No-9
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使 用 ☐ 貯 蔵	☒ 使 用 ☐ 貯 蔵
設 置 場 所	実験室1F (添付第1図参照)	建屋外 (添付第1図参照)
操 業 の 系 統	一次、二次洗浄(産廃処理)→三 次洗浄(流し)	ドラフト→廃ガス洗浄
使用時間間隔	毎日(9時～17時)	毎日(9時～17時)
1日当たりの使用時間	4時間～6時間	ドラフト使用時
使用の季節変動	年末、年度末が多い	年末、年度末が多い
原材料(消耗資材を含む。) の種類、使用方法及び1 日当たりの使用量(有害 物質使用特定施設の場合 に限る。)	別添第1のとおり 有害物質種類:別添第1のとおり	苛性ソーダ(○%) ●kg/日 有害物質種類:別添第1のとおり
貯蔵する有害物質の種類 (有害物質貯蔵指定施設 の場合に限る。)	—	—
その他参考 となるべき事項	作業規定に基づき、実験器具使 用後の一次及び二次洗浄水は回 収して、産廃処理。三次処理水を 流し台に流すが、有害物質は含ま れていない。 (参考資料 ○年○月○日 下水排水測定結果)	洗浄液は循環使用。 No6の排ガスは分析・測定で使用 する標準試薬等に含まれる有害物 質を含む。(No6とドラフト2台の廃ガ スを処理する。) スクラパー洗浄水は年に4回程度 交換し、産廃処理する。

備考 有害物質貯蔵指定施設の場合には、使用時間間隔の欄及び1日当たりの使用時間の欄には、それぞれ当該施設への有害物質を含む水の供給時における当該施設の使用時間間隔及び使用時間を記載してください。

別紙 12 と同じ内容を記入
する。

別図(工場配置図)の設置
場所に印をつける。
(32 ページ参照)

特定施設を含む操業の系
統(フローシート)を記入
する。この欄に記入できな
い場合は別添資料に記入
する。

1日のうち使用する時間
帯を記入する。隔日等の場
合は、その旨記入する。

1日当たりの使用時間を
記入する。

季節変動がある場合には
具体的に
4月～5月 多い
12月～1月 少ない
などのように記入する。

特定施設で使用する原材
料(消耗資材を含む。)の
種類、使用方法、含まれる
有害物質の種類及び1日
当たりの使用量を記入す
る。
1月当たりの使用量を記
入してもよい。
この欄に記入できない場
合は、別途資料を作成し、
必要に応じて安全デー
タシート等を添付する。

必要に応じて排水の状況や処理の
方法について記入する。
例) 3か月に一度産廃処理 等

別紙15

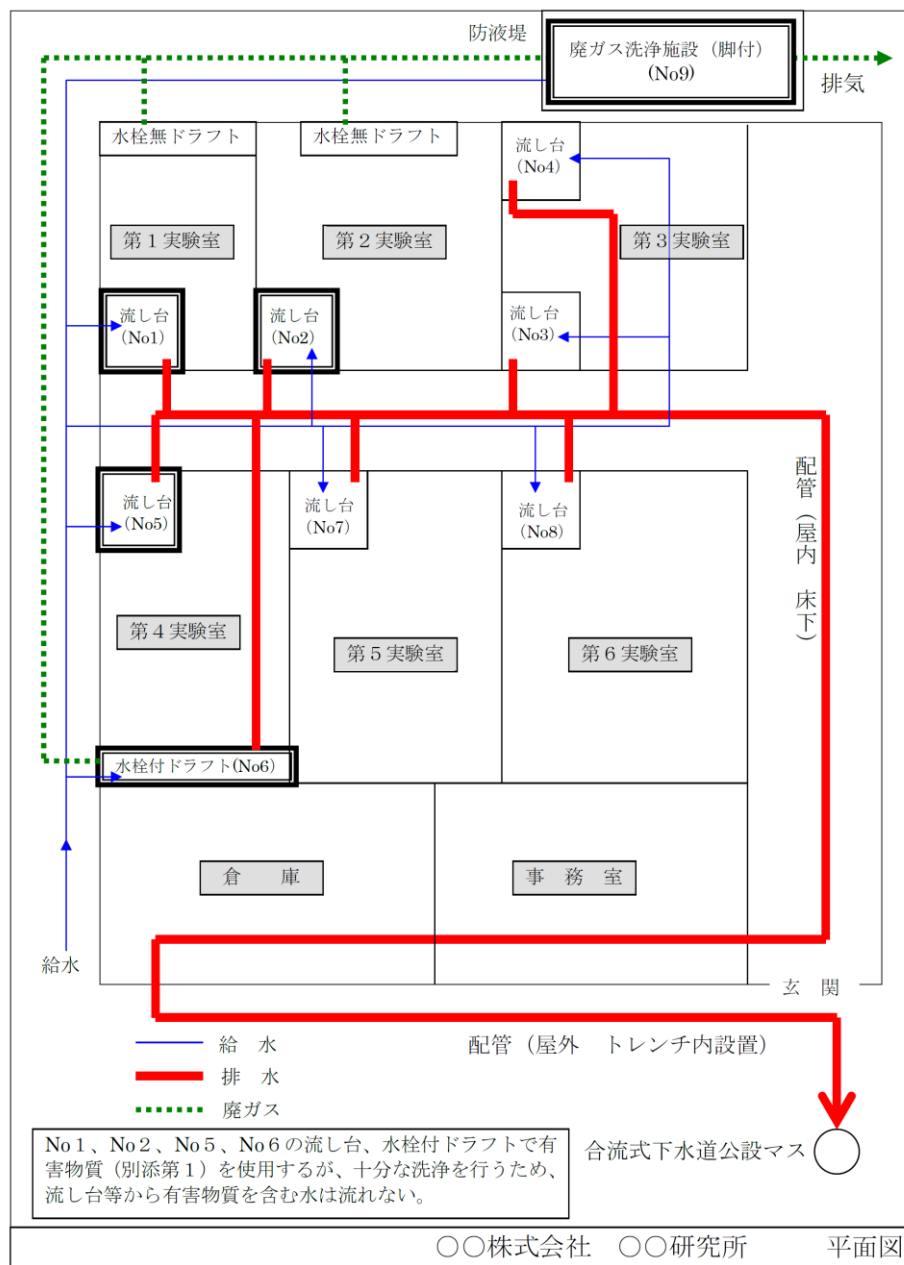
用水及び排水の系統（搬入及び搬出の系統）

施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統（有害物質使用特定施設の場合に限る。）又は貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統（有害物質貯蔵指定施設の場合に限る。）	添付図面一覧 添付第1図 事業場全体配置 第2図 廃ガス洗浄施設構造図（記入例では省略）		
用水用途別量	用 途	使 用 水	用水使用量（m ³ /日）
	実験用水	水道水	12
	生活用水	水道水	4
合 計			16

備考 有害物質貯蔵指定施設の場合には、用途別用水使用量の欄には記載しないでください。

添付図面の一覧を記す。
施設において使用等される有害物質に係る用水及び排水の系統を図示する。

添付第1図（別紙12、13、14、15関係）



この図面は、別紙12、別紙13、別紙14、別紙15の添付資料の例です。
既存の図面を活用し、不足する箇所を追記して作成した図面でも構いません。

② 合流式下水道地域の事業場が有害物質使用特定施設を設置する場合

②のイ クリーニング業 [33 ページから 35 ページまで]

※ 別紙 12 から別紙 14 までの記入例のみ

別紙 12

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の構造

工場又は事業場 における施設番号	No.1ドライ機 (特定施設の種類: 67 洗濯業の用に供する洗浄施設)	
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使用 ☐ 貯蔵	☐ 使用 ☐ 貯蔵
型 式	△△社製 (AA-1)	
構 造	ステンレス、プラスチック等	
主 要 寸 法	(W) (D) (H) 184cm × 147cm × 210cm	
能 力	●●kg/回	
配 置	1F クリーニング作業場 (別添 第1図のとおり)	
床面及び周囲	床面:コンクリート・樹脂被覆 周囲:受け皿 (ドライ機本体に内蔵)	
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	○年 ○月 ○日	年 月 日
工事完成予定年月日	△年 △月 △日	年 月 日
使用開始予定年月日	×年 ×月 ×日	年 月 日
その他参考 となるべき事項		

備考 1 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置について図面を利用して記載してください。(添付第 () 図のとおり)

該当する部分以外は二重線で消す。

複数の施設が存在する場合は添付図面に対応した事業場内における番号と名称を記入する。

使用にチェックを入れる。

施設の型式等を記入する。メーカー名が分かる場合は記入する。

施設の構造材料・材質等を記入する。施設に関するカタログ・資料等を添付する。

施設の大きさを記入する。(構造図等添付)

原則として1施設をフル稼働(想定される1日の最大作業時間)させた場合の能力を記入する。

事業場内の建物の名称・位置等を明記した別図(作業場配置図)に、特定施設の配置が分かるように記入する。(32 ページ参照)

各予定日を記入する。

床面は材質(コンクリート等)や被覆の有無等について記入する。
周囲は受け皿、防液堤、側溝等について記入する。
(同等以上の措置をとる場合は、その他参考となるべき事項欄に内容を記入する。)

別紙 13

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の設備

工場又は事業場 における施設番号	No.1ドライ機	
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設 の別	☒ 使 用 ☐ 貯 蔵	☐ 使 用 ☐ 貯 蔵
設 備	無 (特定施設からの排水管 無)	
構 造		
主 要 寸 法		
配 置		
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	年 月 日	年 月 日
工事完成予定年月日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日	年 月 日	年 月 日
その他参考 となるべき事項		

備考 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備の配置について図面
を利用して記載してください。(添付第 () 図のとおり)

参考

点検内容・頻度等	●施設及び床面等 ・装置本体の異常の有無、漏洩の有無の目視確認(月1回以上) ・床面のひび割れや被覆の損傷等の有無(年1回以上) ●使用の方法に関する事項 ・管理要領の確認(年1回以上)	
----------	--	--

別紙 12 と同じ内容を記入する。

該当の特定施設に接続し、次の施設又は排水処理施設に至るまでの設備がある場合は記入する。(29 ページ参照)

(例 配管、ためます、排水ピット、フランジ、バルブ、水分離機、排水溝等)

該当の特定施設に接続する設備がない場合はその旨を記載する。

各予定日を記入する。

必要に応じて、有害物質を含む水の流れの有無等を記入する。

点検内容・頻度は 77～83 ページを参考に記入する。詳細は、環境省マニュアル『地下水汚染の未然防止のための構造と点検・管理に関するマニュアル』に記載されている。

<https://www.env.go.jp/water/chikasui/brief2012.html>

別紙 1 4

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の使用の方法

工場又は事業場 における施設番号	No.1ドライ機	
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使 用 ☐ 貯 蔵	☐ 使 用 ☐ 貯 蔵
設 置 場 所	1F クリーニング作業場 (別添 第1図のとおり)	
操 業 の 系 統	洗濯→乾燥→プレス	
使用時間間隔	10時から16時	
1日当たりの使用時間	4時間～6時間	
使用の季節的変動	春、秋が多い	
原材料(消耗資材を含む。) の種類、使用方法及び1 日当たりの使用量(有害 物質使用特定施設の場合 に限る。)	パーク溶剤 ○1/日 (ドライ機と回収装置で循環) 有害物質種類: テトラクロロエチレン	
貯蔵する有害物質の種類 (有害物質貯蔵指定施設 の場合に限る。)	_____	_____
その他参考 となるべき事項	スラッジ・廃液等は、屋内の廃棄 物置場(ステンレス製受け皿付) で、ドラム缶内に密封保管し、定 期的に産廃処理	

備考 有害物質貯蔵指定施設の場合には、使用時間間隔の欄及び1日当たりの使用時間の欄には、それぞれ当該施設への有害物質を含む水の供給時における当該施設の使用時間間隔及び使用時間を記載してください。

別紙 12 と同じ内容を記入
する。

別図（作業場配置図）の設
置場所に印をつける。
(32 ページ参照)

特定施設を含む操業の系
統（フローシート）を記入
する。この欄に記入できな
い場合は別添資料に記入
する。

1 日のうち使用する時間
帯を記入する。隔日等の場
合は、その旨記入する。

1 日当たりの使用時間を
記入する。

季節変動がある場合には
具体的に
4 月～5 月 多い
12 月～1 月 少ない
などのように記入する。

特定施設で使用する原材
料（消耗資材を含む。）の
種類、使用方法、含まれる
有害物質の種類及び1 日
当たりの使用量を記入す
る。
1 月当たりの使用量を記
入してもよい。
この欄に記入できない場
合は、別途資料を作成し、
必要に応じて安全データ
シート等を添付する。

必要に応じて排水の状況や処理の
方法について記入する。
例) 3 か月に一度産廃処理 等

② 合流式下水道地域の事業場が有害物質使用特定施設を設置する場合

②のウ 写真現像業 [36 ページから 38 ページまで]

※ 別紙 12 から別紙 14 までの記入例のみ

別紙 12

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の構造

工場又は事業場 における施設番号	NO.1 現像機 (特定施設の種類: 68 写真現像業の用に供する自動 式フィルム現像洗浄施設)	
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使用 ☐ 貯蔵	☐ 使用 ☐ 貯蔵
型 式	A社製 ○○-○○	
構 造	別添カタログ参照	
主 要 寸 法	幅 720mm 奥行 1500mm 高さ 1450mm	
能 力	65本/時	
配 置	店舗内(配置図参照)	
床面及び周囲	床面:コンクリート製100mm厚 周囲:受け皿 ウェス常備	
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	○年 ○月 ○日	年 月 日
工事完成予定年月日	△年 △月 △日	年 月 日
使用開始予定年月日	×年 ×月 ×日	年 月 日
その他参考 となるべき事項		

備考1 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置について図面を利用して記載してください。(添付第()図のとおり)

該当する部分以外は二重線で消す。

複数の施設が存在する場合は添付図面に対応した事業場内における番号と名称を記入する。

使用にチェックを入れる。

施設の型式等を記入する。メーカー名が分かる場合は記入する。

施設の構造材料・材質等を記入する。施設に関するカタログ・資料等を添付する。

施設の大きさを記入する。(構造図等添付)

原則として1施設をフル稼働(想定される1日の最大作業時間)させた場合の能力を記入する。

事業場内の建物の名称・位置等を明記した別図(工場配置図)に、特定施設の配置が分かるように記入する。(32 ページ参照)

床面は材質(コンクリート等)や被覆の有無等について記入する。
周囲は受け皿、防液堤、側溝等について記入する。
(同等以上の措置をとる場合は、その他参考となるべき事項欄に内容を記入する。)

各予定日を記入する。

別紙 13

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の設備

工場又は事業場 における施設番号	NO.1 現像機	
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使用 ☐ 貯蔵	☐ 使用 ☐ 貯蔵
設 備	無 (特定施設からの排水管 無)	
構 造		
主 要 寸 法		
配 置		
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	年 月 日	年 月 日
工事完成予定年月日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日	年 月 日	年 月 日
その他参考 となるべき事項	有害物質を含む水は回収されるため、流れない。	

備考 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備の配置について図面を利用して記載してください。(添付第 () 図のとおり)

参考

点検内容・頻度等	●施設及び床面等 ・装置本体の異常の有無、漏洩の有無の目視確認(月1回以上) ・床面のひび割れや被覆の損傷等の有無(年1回以上) ●使用の方法に関する事項 ・管理要領の確認(年1回以上)
----------	---

別紙 12 と同じ内容を記入する。

該当の特定施設に接続し、次の施設又は排水処理施設に至るまでの設備がある場合は記入する。(29 ページ参照)

(例 配管、ためます、排水ピット、フランジ、バルブ、排水溝等)

該当の特定施設に接続する設備がない場合はその旨を記載する。

各予定日を記入する。

必要に応じて、有害物質を含む水の流れの有無等を記入する。

点検内容・頻度は 77～83 ページを参考に記入する。詳細は、環境省マニュアル『地下水汚染の未然防止のための構造と点検・管理に関するマニュアル』に記載されている。

<https://www.env.go.jp/water/chikasui/brief2012.html>

別紙 1 4

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の使用の方法

工場又は事業場 における施設番号	NO.1 現像機	
有害物質使用特定施設又は 有害物質貯蔵指定施設の別	☒ 使 用 ☐ 貯 蔵	☐ 使 用 ☐ 貯 蔵
設 置 場 所	店舗内(配置図参照)	
操 業 の 系 統	発色現像→漂白→水洗→定着 →水洗→安定→乾燥	
使用時間間隔	毎日(10時～20時)	
1 日 当 た り の 使 用 時 間	6時間	
使用の季節的変動	特になし	
原材料(消耗資材を含む。)の 種類、使用方法及び1 日当たりの使用量(有害 物質使用特定施設の場合 に限る。)	①現像液 OL/日 ②定着液 OL/日 ③安定剤 OL/日 有害物質種類: アンモニア等	
貯蔵する有害物質の種類 (有害物質貯蔵指定施設 の場合に限る。)	なし	
その他参考 となるべき事項	フィルム現像機の廃液は全て委託 業者が回収する。	

備考 有害物質貯蔵指定施設の場合には、使用時間間隔の欄及び1日当たりの使用時間の欄には、それぞれ当該施設への有害物質を含む水の供給時における当該施設の使用時間間隔及び使用時間を記載してください。

別紙 12 と同じ内容を記入
する。

別図（店舗内配置図）の設
置場所に印をつける。
(32 ページ参照)

特定施設を含む操業の系
統（フローシート）を記入
する。この欄に記入できな
い場合は別添資料に記入
する。

1 日 の うち 使 用 す る 時 間
帯 を 記 入 す る 。 隔 日 等 の 場
合 は 、 そ の 旨 記 入 す る 。

1 日 当 た り の 使 用 時 間 を
記 入 す る 。

季節変動がある場合には
具体的に
4 月 ～ 5 月 多い
12 月 ～ 1 月 少ない
などのように記入する。

特定施設で使用する原材
料（消耗資材を含む。）の
種類、使用方法、含まれる
有害物質の種類及び1日
当たりの使用量を記入す
る。

1 月 当 た り の 使 用 量 を 記
入 し て も よ い 。
この欄に記入できない場
合は、別途資料を作成し、
必要に応じて安全デー
タシート等を添付する。

必要に応じて排水の状況や処理の
方法について記入する。
例) 3 か月 に 一 度 産 廃 処 理 等